

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
		基礎ゼミ（特別支援教育コース） (Basic Seminar) *大分を創る科目(Oita Development Course)					全学共通科目 導入・転換								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
必修	1	1	教育学部 令和4年度 以降入学生用	前期	金3	日本語				複数(共同)					
担当教員	氏名 衛藤裕司・古長治基・五位塚和也														
	E-mail eto@oita-u.ac.jp・h-kocho@oita-u.ac.jp・k-goitsuka@oita-u.ac.jp 内線 7537・6147・6149														
授業の概要	大学生生活を送る上で必要な情報を提供し、将来の目標に合う教員免許種を取得するため、必要な講義の履修の仕方について学ぶ。また、コース担当教員を始め、先輩・新入生同士と新たな人間関係を築くことにより、大学生生活の最初の礎を築く。														
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	4年間の大学生活を快適に送るために役立つ情報を入手することができる。								○						
目標2	卒業に必要な専門科目をはじめとする講義の履修の仕方がわかり、履修計画を立案することができる。									○					
目標3	観察体験を通して障害のある子どもの教育課題に興味関心を持つことができる。								○						
目標4	コースの担当教員や先輩との人間関係を形成することができる。								○						
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度（計10）															
授業の内容															
1	特別支援教育コースの紹介，コースの活動と学び														
2	大学生としての生活														
3	卒業に必要な科目の履修とその学び方														
4	特別支援学校教諭免許状に関する基礎知識														
5	大学における施設・設備とその利用														
6	障害のある子ども・大人との接し方について														
7	脳性まひ児のための月例会の参加観察体験														
8	ダウン症児のための月例会の参加観察体験														
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	講義・研修の体験や月例会の参加観察において学んだ内容について，ディスカッションを行うなどの機会を設け，学んだこと・考えたことについてレポートにまとめる。				工夫その他の								
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	特別支援教育コースの行事については可能な限り，また，大分大学学内外の施設，保護者の会などについて調べておくこと（11.5h）													
	事後学修	各回の内容について振り返りを行うこと（11.5h）													
	想定時間合計	23													
教科書	教科書は使用しない。資料を配布する。														
参考書	参考書を指定しない。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	体験・討論への取組みの程度		50%	○	○	○	○						
	課題レポート		50%			○							
注意事項	特別支援教育コースの学生に限る。												
備考	施設利用等の都合により、授業の順番，曜日，時間帯が変更されることがある。												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	五位塚和也（臨床心理士・公認心理師），古長治基（臨床心理士・公認心理師）												
実務経験を いかした教育内容	障害のある子どもおよび保護者の発達相談に関する実務経験と専門的技能を活かし、知的障害のある児童生徒への指導・支援の技法について、学生が体験的に学習する機会を設ける。												